

■ 東日本大震災

2011年(平成23年)3月11日、宮城県牡鹿半島の東南東130km、仙台市の東方70kmの太平洋の海底を震源とする東北地方太平洋沖地震が発生しました。

地震の規模はマグニチュード9.0を記録し、市内でも最大震度6弱を観測、浜通り沿岸が大津波に襲われました。

この未曾有の地震と大津波は、多くの市民の尊い生命を奪うとともに、沿岸部を中心に甚大な被害をもたらしました。

さらには大地震に伴う東京電力(株)福島第一原子力発電所事故により、いまだに多くの市民の生活が影響を受けています。

そして今、東日本大震災や原子力災害を教訓として受けとめ、市民が安心して住みつづけることのできるまちづくりが求められています。

■ 日頃から防災について考えておく

巨大地震や自然災害の発生を防ぐことはできませんが、被害を少なくすることはできます。

そのためには、南相馬市に大きな被害をもたらした東日本大震災の教訓を踏まえ、家庭や職場、地域で災害について日頃から考え、十分な知識を持ち適切な行動がとれるように、備えておかなければなりません。



■ 東日本大震災から学ぶこと

1. 地震

市内で最大震度6弱を観測し、沿岸部が大津波に襲われ、甚大な被害が発生しました。
未曾有の災害がいつでも起こりうることを学びました。

地震は、
日頃の備え

2. 津波

東日本大震災では、地震に引き続き大津波が発生しました。
想像を超える大きな津波の襲来に対し、津波情報の伝達や避難することの重要性を学びました。

津波は、まず
避難

3. 原子力災害

地震・大津波により福島第一原子力発電所の冷却系統に支障が発生し、炉心溶融により放射性物質が漏れいする国内最悪の原子力災害が発生しました。
原子力発電所事故のリスクと避難体制の重要性を学びました。

原子力災害は、
身を守るための
防護

われわれが東日本大震災から学ぶことは

● 命を最優先に守る

何より命を守ることを最優先に考え、行動します。

● 被害を減らすために備える

災害の発生を完全に防ぐことはできないことから、災害時の被害を最小化するために、日頃から防災・減災について考え備えることが、もっとも有効です。

● 自助・共助の心構えを持ち実践する

自らを守るのと合わせて、地域で協力しあい助けあうことで人の命や被害の軽減につながります。